

令和7年度 学力向上のための重点プラン【中学校】 新宿区立西早稲田中学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・令和7年5月2日】

授業作り	重点	・学習目標の明確化を図る。 ・主体的・協働的に学ぶ学習を図る。
環境作り		・ICT機器の活用を進める。 ・個に応じた指導を工夫する。
		・安心して学習に取り組める良好な学級集団を育成する。 ・教室環境を整え、学習や行動の決まりを生徒に分かるように示す。

■ 各教科の取組について

教科	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子などから)	目標達成のための取組
国語	・新宿区学力定着度調査の結果から、学年間の差が見てとれる。A～D層の分布は、両学年とも、すべての層が概ね同比率である。 ・言語事項(漢字、文法)については、一昨年度よりも向上が見られているが、作文や論理的な思考については課題がある。 ・国語に対する意識調査においては、「意見交流」への意識は高い数値であったが、「家庭学習」についてはA～D層で差が見られた。	・作文や論理的な思考については、文章や活動を目的とするだけでなく、書き方や読み方のスキルの習得を目的とする授業を単元の中に設定する。 ・言語事項の指導については、現状の方法を継続しつつも、生徒の理解に即して個に応じた指導を展開していく。 ・家庭学習の充実のために、自己分析方法、学習方法についても指導していく。また、適切な学習課題を提示していく。	①書き方、読み方を重視した授業の設定と教科書内外の資料を使った発展課題の設定を行う。 ②言語事項については、副教材や帯単元を活用し、日常的に反復する。 ③デジタルドリルや、副教材、自作ワークシートを利用した家庭学習課題の提示を行う。
数学	・新宿区学力定着度調査の平均正答率における区との差は、第2学年+8.9%、第3学年+8.6%であった。学力層は、第2学年はA層が41.9%でもっとも割合が高く、次いでB層が26.5%であった。D層は17.1%であった。第3学年はA層が37.9%でもっとも割合が高く、次いでB層が24.2%であった。D層は18.2%であった。 ・第2学年では応用分野、第3学年は関数の分野の正答率が若干低かった。	・少人数指導の中で、学習に取り組む意欲の向上を図る。 ・既習事項の積み重ねが特に大事な教科のため、つまずきの原因を的確に見取り、個別指導の充実を図っていく。 ・少人数指導の充実を図るなかで、D層の正答率の向上を図る。	①タブレット端末を活用した反復学習の機会を増加(デジタルドリルや、表計算ソフトを活用した教材など)させる。 ②習熟度別指導クラス再編成の機会を増やし、実態に即した指導を行う。また、クラス選択のための客観的資料を増やす。

理 科	・新宿区学力定着度調査の結果では、区平均よりも正答率が高く、どの学年も基礎基本的な既習事項がある程度定着していることがわかる。 ・新宿区学力定着度調査の結果では、応用問題・記述問題の正答率も高く、科学的に思考を要する問題にも取り組み、解答する力がついていることがわかる。	・基礎基本的な既習事項の定着に向けて、一度学習した内容を振り返りながら、くり返し学習を行い、定着を図る。 ・授業内で、つまずきの原因を的確に見取り、個別指導の充実を図っていく。 ・授業全体を通じて上位層から下位層まで興味・関心をひくような発問をし、活気ある授業展開を行いながら、学習意欲を高めていく。	①プリントを活用した反復学習を行う。 ②実験プリントにおいて記述式によるレポートの作成と個別指導を行う。 ③ワークシートによる問題演習を行う。
社 会	・既習事項であっても、学習してから時間が経ってしまうと正答率が低くなる傾向がある。 ・短文や単語の正答率よりも、記述式の正答率が低くなる傾向があるが、中学2年においては、1年次よりも正答率が上がっている ・無回答の問題が全国平均や区平均に比べて低く、問題に対して考えて答えを出そうとする意欲が見られる ・地理に比べると歴史の理解や知識の定着に曖昧さがある。	・学習後から時間が経過しても既習事項をきちんと覚えていることができるように、単元の中盤、終盤における学習の場面でも、確認を織り交ぜた学習（反復学習）に取り組むことで、反復した学習や知識を身につける機会を設ける。 ・何をポイントとして（キーワードとして）説明をすれば良いのかに重点的に取り組んできた結果、自分の考えを記述することへの抵抗を減らすことができていることから、今後も継続する。 ・歴史的事柄について、興味や意欲を育むとともに、確かな知識につながるように学習習慣を身につけさせる。	①小テストの実施 ②デジタルドリルの活用 ③記述式による自分の考えをまとめる練習 ④授業内の発問による知識・理解の用語の適宜確認 ⑤ワークシートの工夫 （歴史的事柄の整理がより一層行えるようにする）
英 語	・新宿区学力定着度調査の結果から、平均正答率で全国平均と比較すると第2学年は全ての項目で+15%以上、第3学年は+10%以上上回っている。 ・第3学年はA層の人数が4.3%増加し、D層では1.6%減少している。第2学年ではA、B層で69.8%となっており、C、D層の2倍となっている。	・年々上位層が増えているため、更に生徒の能力を引き出せるように、主体的に学習できるような活動などを取り入れる。 ・ALTとの関わる機会を増やし、生徒が意欲的に英語でコミュニケーションを取ろうとする機会を作る。 ・生徒用タブレット端末にあるデジタル教科書を使用し、生徒が家庭学習でも効果的できるような課題を与える。 ・教科書や副教材などで文法指導を行うと同時に、既習の文法を会話などの活動で使用して定着を図る。	①帯活動等での既習の文法を用いた活動による文法の定着 ②ALTとの活動による、聞く力と話す力の向上 ③生徒個々でのタブレット端末を活用した学習時間の確保 ④デジタル教科書の効果的な活用 ④定期的な小テスト実施による、単語・文法の定着 ⑤授業内で取り扱った内容、小テストの課題、デジタル教科書の内容についての家庭学習の推進